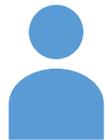


## 川上に関する主な意見



- 集約化は、まとまった面積があるとやりやすいが、所有規模が小さいと手間がかかる。
- 林内に作業道があっても木が出ておらず、作業道が活用されていないと感じる。
- 中間土場は量をまとめてストックできるので、ロット対応が可能になることがメリット。
- 雇用対策には、事業規模・期間が確保できる奈良県木材生産推進事業(大規模な集約化事業)が有効。



- 将来ヘリコプター会社がなくなれば木材搬出量が減るため、路網整備と架線技術の継承が必要。
- 奈良県の道は大型車が入りにくい山が多く、他府県よりも物流コストがかかってしまう。
- 奈良県の木は高齢級、高品質が強み。原木平均価格は高いが採算がとれない原因は伐採・搬出・運搬コスト。



- 奈良県には質の林業も残しておくべき。時代のニーズにあわせて地域ごとに細かな施策が必要。
- 森林組合と民間事業体はやり方が異なる。安定的な雇用先として森林組合の作業班の充実を。
- 育成した人材の雇用対策が重要、また、作業道のメンテナンスに対する支援の発想も必要である。



- 林業就労者の確保のためには、月給制の導入等安定した収入が必要。



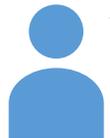
- 全国展開する林業事業体は、収益に直結するため、高性能林業機械や作業員の連携体制をとっている。

# 素材安定供給WG・流通拡大WGの概要 (第1回及び第2回WG会議で出された意見)

## 川中に関する主な意見



- 非住宅分野の店舗等では、**枠組壁工法の需要が多い**。県産材で2×4材を供給できないか。
- 柱に県産材を使用しておきながら、梁を外材にするのは残念。県産材で横架材を供給できないか。



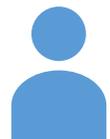
- 集成材ラミナ**について、外材から県産材に切り替わるのは難しい。県産材で採算を合わせるためには相当な量が必要。中断面(梁)では、スギの強度の低さが大きな問題。**柱であれば使われる可能性は残されている**。
- 合板向けの原木は、価格を東北レベルにしないと競争にならない。(参考:工場着価格8,000円/m<sup>3</sup>)
- あるシンポジウムで、**設計者側から「価格と量と調達期間を明確にしてほしい。」**と言われていた。



- スギの横架材は強度確保の面で不安。ヒノキの価格差が縮まってきたためヒノキ等材を使用してはどうか。
- 製材**について、**他県産材から県産材への切り替えについては心配不要**。
- 市場の取扱量が減少**。素材業者、山主の**採算がとれないことが原因**。



- ホワイトウッドを避けてスギ集成材を使う現場もある。**スギにこだわる場所では需要**はある。



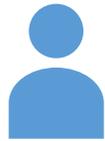
- 県産材を造作用集成材の芯材に使うのは、価格・品質の面で受け入れられない、化粧材で使用する方法が良い。

# 素材安定供給WG・流通拡大WGの概要 (第1回及び第2回WG会議で出された意見)

## 川下に関する主な意見



- 住宅については、購入する人が木材のことをよく知らないので、**県産材の良さを引き続きPR**していく必要がある。
- 非住宅事業への転換期**。県内のサブゼネコンを巻き込んで事業を進めていく必要がある。
- 業界の**設計力をつけないといけない**。
- 非住宅の木造建築に使用する部材は**構造計算が第一条件**。集成材か無垢材かは問わない。



- ハウスメーカー**への部材供給は**コスト、品質、安定供給**が求められる。
- 県産材にこだわると選択肢が狭まくなり、マッチングが難しくなる。近畿材、関西材で考えられないか。



- 県産材の利用拡大のためには、**木造建築に取り組む**ことが一番大事。
- ブランドをつけるものと産業として成り立たせるものとは、明確に区別する方がよい。
- 木造を設計する際、**木材の価格、供給量や調達期間**が分からないことがある。
- 木造に不慣れな設計者や施工者が多いので、**木材利用・木造建築についての教育**を進めることが必要。
- 木造に対する認識を深めるために**発注者への啓発**も必要。



- 製品の規格として、製材JASか、奈良県地域認証材か、あるいは双方か、明確な方向性が必要。
- 木構造だけでなく、内装などの木質化を提案する人材の育成も必要。